

# 平成20年度 たっち 事業計画概要

		本年重点ポイント	対利用者	職員・業務		
前年の概況	<p>1. 平成17年3月オープン以来丸3年を経過し、府中市の子育て支援の中核施設として、市民・関係機関への認知も増した。</p> <p>2. ひろば登録者は述べ2万7千を数える。現保有利用数は24,143名(1/4現在) 市内10,683名・市外13,460名 入場制限回避・混雑緩和に向け、各種施策を実施(18年度63回 →19年度29回)更なる課題は山積</p> <p>3. リフレッシュ保育 月平均登録35名(18年度40名) 利用者130名(18年度110名)</p> <p>4. ファミリサポートセンターは、依頼会員839名 提供会員221名 両方会員65名(12月末現在)</p> <p>5. 受付においては、ひろば登録はやや落ち着くも、未だ1日あたり18件、また保健室での身体測定も人気あり、1日あたり7件と需要大きい</p> <p>6. 相談事業においては、新規相談件数は1月末までで645件 4月から11月までの相談累計は14,112件 うち虐待は7,120件 市の相談員と協働しながら、幅広い相談内容に対応した</p> <p>7. 各部署協働をテーマに事業運営 お互いの業務を知ることで連携は深まりつつある 今後も更なる相互理解を進めることが求められる</p>	<p><b>重点ポイント</b></p> <p>1 利用者が、楽しく かつ安全・安心に利用できる場の提供をする ・来館いただいた方にまた来たいような場を心がける ・大勢の子どもの集う場として常に事故防止を心がける</p> <p>2 市内子育て拠点の中核拠点として ・市内子育て情報の受発信をする ・市内関係機関との連携を深める</p> <p>3 子ども家庭支援センターしらとりとの連携を深める ・支援センター相談員を軸に相互の情報を共有し、相互で支えあう ・新入職員も、事業を体験し、体で覚える</p> <p>4 職員の一人ひとりのスキルアップを図るとともに、一人ひとりで悩まないチームワークを構築する ・ヒトを支える仕事の重みを踏まえ、常に心身とも健全な職員であるよう確認しあう ・職員同士のコミュニケーション研修 ・本部主催および外部研修の活用</p>	<p><b>運営・管理</b></p> <p>1 子どもが集う場として常に「安全・安心」な館を維持する—その上で利用者がまた来館したくなるように職員一同マナー思いやりを心がける</p> <p>2 3年間のデータ等を踏まえ、予見できる事象にとるべき対応を考える(曜日別人員配置計画・交流ひろば入場制限回避策・地域別戦略等)</p> <p>3 利用者アンケートおよび自主サービス評価を継続し、利用者視点でのサービスを推進する</p> <p>4 部署間の必要な利用者情報を密にし、均一した利用者対応が図れるよう情報を共有する</p> <p>5 常に安心・安全な館を目指す。毎月の防災・防犯訓練を充実する。 ・利用者参加型の訓練実施を検討する</p>	<p><b>職員・業務</b></p> <p>1 職員が心身とも健全に業務に従事できるようマネジメントする</p> <p>2 それぞれがスキルアップできる研修プログラムを構築実施する ・新入職員は、たっち・しらとり連動で、事業・サービス内容を体験し学ぶ ・専門職員はそれぞれのスキルに対応しより専門性を高める</p> <p>3 過去のデータに基づく、人員配置の検証 ・木曜日は混む ・幼稚園の行事に影響うけるひろば来館数 ・月曜日は控えめな 0歳児</p>		
		課題	<p>1. 限られた人員体制での業務範囲の制約 ・多岐にわたる業務のプライオリティ付け ・ヒトの配置一日時毎の重点箇所</p> <p>2. たっち内の連携強化—法人の連携・市職員との連携 ・相談スペースの確保</p> <p>3. 子ども家庭支援センターしらとりとの連携強化 ・定期連絡会の有効活用</p> <p>4. 府中市連動での市内子育て支援ネットワークの稼働 ・活用すべき要保護児童対策協議会・関係機関連絡会 ・運営協議会、府中市内子育てひろば連絡会</p> <p>5. 防犯、防災の徹底 ・常に安全な場の確保—関係各庁講師による実践訓練</p> <p>6. 人材育成—更なる研修の充実 ・職員一人ひとりの質的向上(ネットワーク・情報メンタルヘルス・コミュニケーション等)</p> <p>7. 職員が心身とも健全に勤務できる体制づくり ・職員間のコミュニケーション(休館日の活用) ・コンサルテーションの仕組みづくり</p> <p>8. 職員が心身とも健全に勤務できる環境整備 ・「加湿」「換気」「空調」対応を府中市に常に働きかける ・ファミサポの事務所スペースの確保</p>	<p><b>☆全体を通した考え方</b></p> <p>法人の役割「私たちは家族を支援します」を念頭に子育て家庭の力の一助になり、地域の子どもたちが安心・安全に暮らせるよう支援する</p> <p>そのために 府中市協働のもと、しらとりをはじめとする市内関係機関と連携し、子育て支援の中核拠点として地域福祉の向上を目指す</p> <p>また、推進にあたり 法人の基本指針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 利用者に深い共感をもつ</li> <li>2 地域の方々に感謝する</li> <li>3 水、電気などの資源を大切に</li> <li>4 常に防災を心がけ火を出さない</li> </ol> <p>の教訓を理解し、職員ひとりひとりがそれぞれの立場で読み替え行動指針としていく</p> <p>20年度の具体的なアクションとしては 法人のテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①利用者へのサービスの質の向上</li> <li>②職員の育成</li> <li>③今後の法人の発展</li> </ol> <p>を踏まえ、計画を立て、実践していく</p>	<p><b>総合相談</b></p> <p><b>受付</b></p> <p>1 利用者に深い共感を持ち、いつでも気楽に施設利用し、問い合わせや相談ができる雰囲気づくりを行う</p> <p>2 利用者が安心して地域で子育てができるように地域の資源や交流会・講座を案内する</p> <p>3 たっちの他部署と連携し施設全体として一貫性のあるサービスの提供を行う</p> <p><b>相談</b></p> <p>1 虐待の予防と早期発見を行い、市の相談事業と連携・協働を行う</p> <p>2 利用者の悩みや困ったことに対して共感し、利用者の問題解決能力が発揮できるように支援を行う</p> <p>3 利用者のニーズを把握し、地域の方々に喜ばれるような交流会や講座を実施する「妊婦向け、パパ・ママ向け・2歳児イヤイヤへの関わり方」年に1回</p> <p>4 しらとりと協働し、より充実した相談事業とサービスの提供を行う</p>	<p>1 利用者に必要な情報の収集・発信を適切に行う</p> <p>2 たっちの他部署の業務を熟知し、利用者により適切に案内を行い、部署間の連携が円滑に行えるように配慮する</p> <p>1 利用者支援に必要な知識や技術、常に最新な情報を収集し対応できるよう心掛ける</p> <p>2 利用者やその家族の生活全般を総括的に支援する。</p> <p>3 相談員の援助技術の向上と併せて、セルフケアを心がけ、お互いにサポートし合える関係をつくる</p>
			<p><b>家族支援</b></p> <p><b>ひろば</b></p> <p>1 当事者主体を意識しながら、利用者が安心して、安全に過ごせる場を提供する</p> <p>2 利用者が話しやすい雰囲気づくりを行い、気軽に相談できる場としての役割を果たす(不安の高い利用者に対しては、相談事業へのつなぎの役割も果たす)</p> <p>3 スポットタイムを通じ、季節を感じ、親子のふれあいや家庭での関係が広げられるようにする</p> <p>4 0歳児・1歳児を対象とした交流会を実施し、利用者同士の仲間づくりを支援するとともに、保護者のリフレッシュを図る</p> <p>5 感染症予防の対策に取り組み、掲示板などを活用し、利用者への啓発を図る</p> <p>6 他事業との連携をとりながら、利用者支援の向上を図る</p> <p><b>リフレッシュ保育</b></p> <p>1 子どもも親も安心して利用できる保育を目指す。</p> <p>2 ひとりで子育てを抱え込まない、育児疲れ等の予防的役割を担う。</p> <p>3 利用者共感する姿勢を持ち、「子どもの育ち」「親の育ち」を応援する。</p> <p>4 利用者ひとりひとりを的確に把握し、変化を踏まえた個別的な働きかけを行う。</p> <p>5 より正確な情報を把握する 年度毎に利用者情報等を更新いただく</p> <p>6 他の事業と連携し、子育て家庭を支援する。</p> <p><b>ファミリーサポート</b></p> <p>1 広報活動を強め、会員の拡大を行う。 通信の発行(年3回)／HPの活用／市広報</p> <p>2 サポートに必要な親がいつでも登録できるよう依頼会員説明会を定期的に開催する。(月2回以上)</p> <p>3 提供会員が安心して援助できるよう講習会の充実を図る。 入会時の4日研修</p> <p>4 ステップアップ講座を定期的に開催し、スキルアップを図るとともに、会員相互の交流を深める—年2回の専門研修(発達障害・救急対応等)</p> <p>5 馴染みづくりへの会員同士の交流会の開催—年2回 コミュニケーションから信頼、安心感の醸成</p> <p>6 市内関係機関と更なる連携を図り、本事業の理解を広める</p> <p>7 他事業との連携をとりながら、利用者支援の向上を図る</p>	<p>1 職員間のコミュニケーションを密にし、情報共有を円滑に行う</p> <p>2 他部署の情報発信、情報共有を密に行い、部署間の連携が円滑に進むようにする</p> <p>3 利用者支援を向上させるためのスキルアップを図る</p> <p>4 データに基づく人員配置と一日の時間帯別の根本的配置ベースを検証する</p> <p>1 「ほうれんそう」を徹底し、職員間の意志疎通をはかることにより、利用者への丁寧な対応と充実した保育を行う</p> <p>2 部署内における事例共有会をととして、職員のスキルアップを目指す。</p> <p>3 多様な利用者への支援に必要な知識・技術の向上に努める</p>		